

新成長戦略研究「新たなウナギ産業の創出」 (天然ニホンウナギの資源生態の解明)

(予算区分 新成長戦略研究 研究期間 平成 25～27 年度)
担当：水産技術研究所 浜名湖分場・富士養鱒場
田中寿臣・鈴木基生

【研究の背景とねらい】

ニホンウナギの資源は、平成 26 年 6 月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど、その減少が危惧されています。そのため、生息環境の維持や漁獲圧の抑制など様々な資源保護策が求められていますが、ニホンウナギについては生態などの基本的な情報が少ないのが現状です。

そこで、ウナギの来遊から成熟までの生息実態を、河川と漁獲実態が多い特殊な浜名湖で明らかにし、ウナギにとって棲みやすい河川環境(河川管理の方法)と資源維持のための適切な漁獲管理や親ウナギ放流手法を提言します。

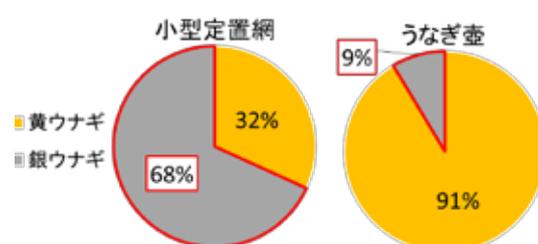
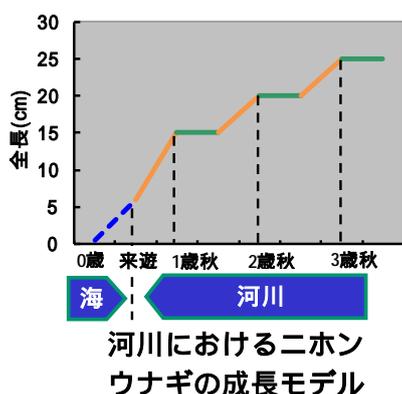
【これまでに得られた成果】

(平成 25-26 年度の成果)

- 伊東市内の小河川での調査により、全長 5～6cm で来遊したシラスウナギは、その年の夏に約 15cm まで急成長し、その後は毎年 5～10 月の高水温期に約 5cm ずつ成長していくことが分かりました。
- ウナギにとって重要な生息場所は砂泥底や砂礫底であり、人工工作物(落差工、護床工)もウナギの生息場所として機能していることが明らかになりました。
- 浜名湖におけるシラスウナギの来遊状況を周年にわたり調査したところ、来遊期間は 12 月または翌年の 1 月から 5 月まででした。また、来遊のピークは 3 月または 4 月でした。
- 成魚では 9 月から 10 月にかけて、産卵場へ向かうと推定されるウナギ(生殖腺、胸鰭、眼球の発達、消化管の退縮したウナギ；銀ウナギ)が出現しました。これらの体重を雌雄別にみると、およそ 250 g 未満は雄であり、これを超えると雌となっていました。
- 浜名湖でウナギを漁獲する漁業は小型定置網とうなぎ壺が主体であり、銀ウナギは小型定置網で多く漁獲されていました。



シラスウナギ周年採捕調査に用いる定置網



10月から12月の漁法別銀ウナギの漁獲割合

【期待される成果】

本邦へ来遊するシラスウナギから産卵場へ戻る銀ウナギまで、ニホンウナギのあらゆる成長段階での生態や漁獲実態が明らかとなり、ニホンウナギ資源保護の取組が一層進展します。

【今後の計画】

調査を継続し、得られた成果をウナギ資源保護団体や河川改修などの取組に反映させ、親ウナギ保護やウナギが棲みやすい河川環境の構築に努めていきます。

(作成 平成 27 年 4 月)